

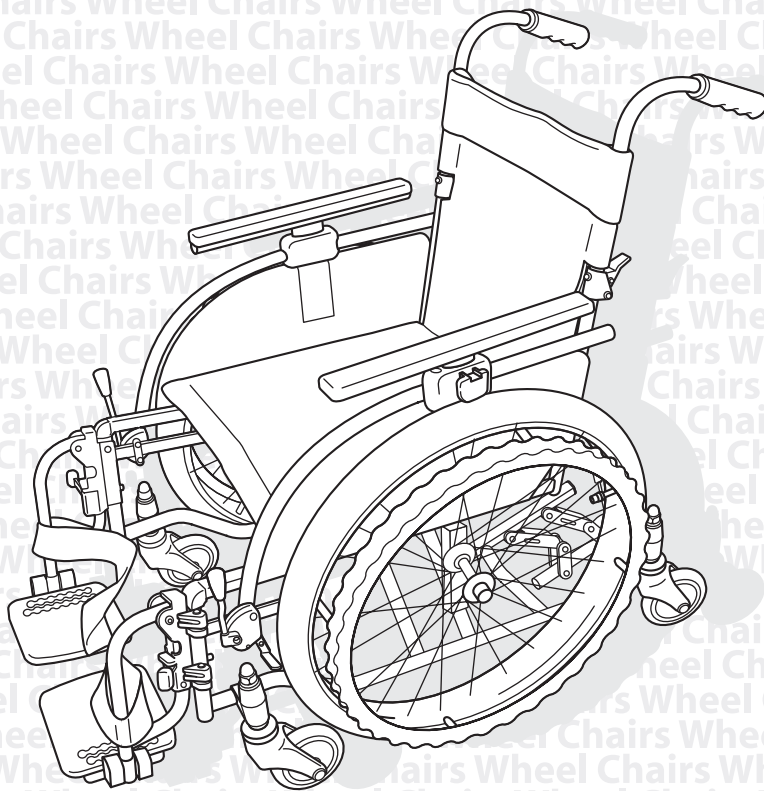
室内専用6輪車いす

タイトターフシリーズ

取扱説明書

保存用

保証書付



⚠ 注意

- この車いすは室内専用車いすです。室内での使用を想定し、設計・製作しております。万一、屋外で使用する場合には、十分に注意し、使用後は各部を点検してお使いください。

※TT-ジョイをご購入の場合はジョイユニット(タウニイジョイ)の取扱説明書も必ずお読みください。



MATSUNAGA

このたびは、(株)松永製作所製品の車いすをお買い上げいただき、ありがとうございます。
この取扱説明書には、お客様が安全に正しくご使用していただくために必要な注意事項や正しい使い方が説明されています。ご使用になる前には、必ずお読みください。また、保証書が付いておりますので紛失しないように大切に保管してください。

車いすが、使用者の身体に合わない状態で乗らないでください。健康をそこなう恐れがあります。
そのような場合は、購入されたお店、または、かかりつけの病院にご相談ください。

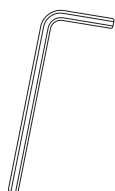
- お買い上げの製品は、改良などにより、この「取扱説明書」の内容と一部異なる場合があります。
- ご不明な点がございましたら、お買い上げの販売店または、直接弊社までお問い合わせください。

付属品

TT-01,02の場合



取扱説明書



六角レンチ
(対辺4mm)

TT-ジョイの場合



取扱説明書



ジョイユニット
取扱説明書(※)



六角レンチ
(対辺4mm)

TT-Jr.の場合



取扱説明書



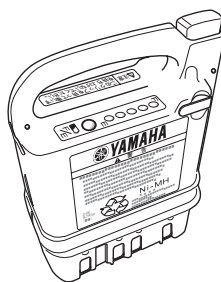
六角レンチ
(対辺3mm)



六角レンチ
(対辺4mm)



六角レンチ
(対辺5mm)



バッテリー



充電器

※タウンイジョイ
取扱説明書の
場合もあります。

ご使用前に

出荷時には検査をしておりますが、ご使用前に次のご確認をお願いいたします。

- 箱が破損したり、濡れたりしていないか。
- 各部の破損・キズ、フレームのゆがみ、ボルト・ナットや部品の脱落はないか。
- 付属品はすべて揃っているか。
- タイヤの空気圧は適正か。(タイヤを指で押さえ確認してください。)(P.6 参照)


もし異常があればご使用にならず、すぐにお買い求めの販売店または、弊社までご連絡ください。


目次

安全にお使いになるためのご注意	2
機種別寸法・機能一覧	4
各部の名称	4
機能説明	5
安全にお使いになるための使用方法	6
使用前の点検	6
ブレーキの使用方法	6
車いすの操作方法	7
車いすの拡げ方	8
車いすの折りたたみ方	9
手動と電動の切り替え方	9
車いすの乗り方・降り方	10
段差の乗り越え方	11
介助の仕方	11
安全ベルト *オプション	13
その他の注意事項	13
各部操作・調整の方法	14
フットサポートの調整(高さ&前後調整)	14
アジャスタブルフットサポート(前後&角度)の調整	15
フット・レッグサポートの開閉(スイングアウト機能)	18
アームサポートの調整(高さ)	18
アームサポートの跳ね上げ	19
座面高さの調整	20
もしこんなトラブルが発生したときは	20
車いすのお手入れの方法	21
保管場所	21
保証	21
アフターサービス	21

安全にお使いになるためのご注意

安全に正しくご使用していただくための重要な事項です。その意味はつぎのようになっておりますので、内容をよくご理解のうえ、必ずお読みいただき正しくご使用ください。表示内容を無視して、誤った取扱いをした場合に生じる危険や損害の程度を説明しています。

 **警告** この表示を無視して、誤った取扱いをすると、死亡または重傷を負う可能性が想定されることを示します。

 **注意** この表示を無視して、誤った取扱いをすると、傷害を負う可能性があることおよび物的損害の発生する可能性が想定されることを示しています。

お守りいただく内容の説明



この表示は、してはいけない「**禁止**」内容です。



この表示は、必ずしていただく「**強制**」内容です。

警告

(禁止)



しては
いけない

- タイヤの空気圧が少ない状態で、使用しないでください。
ブレーキのロックが出来なくなり、車いすが動いたりして、事故の原因となります。
- バックサポート折りたたみのロックレバーに、かばんなどを引っ掛けしないでください。
ロックが解除され転倒・転落等事故の原因となります。
- フットサポートの上に乗って乗り込んだり、降りるとき上に立ち上がらないでください。
車いすがバランスを崩し、転倒事故の原因となります。
- 車いすのシートの上で立ち上がらないでください。
転倒事故の原因となります。
- 故障、異常のあるときは使用しないでください。
事故、転倒などによるケガの原因となります。
- 改造しないでください。
改造によって車いすの部品の破損、脱落などで安全性が低下して事故、転倒の原因となります。

(強制)



必ずして
いただく

- 車いすに乗る・降りる前や、ベッドへの移乗時には、ブレーキをロックしてください。
車いすが動き、転倒事故の原因となります。
- バックサポート折りたたみのロックピンが、「カチッ」と音がして、完全に出ているのを確認してください。
転倒事故の原因となります。
- 走行中にクラッチレバーを切り替えると、暴走、転倒・転落の恐れがあります。〈TT-ジョイの場合〉
クラッチレバーの切り替えは必ず停止した状態で行ってください。
- スロープの登り下りの時は、介助者の方が支えて行ってください。
スピードが出たり、バランスが不安定になり、転倒・転落等事故の原因となります。
- 道路の通行は、必ず右側を通行してください。(歩道がある場合は歩道を通行してください。)
道路交通法規を守らないと、交通事故の原因となります。
- 踏切等の溝を乗り越える時は、必ず介助者に支えていただいで行ってください。
車輪が溝にはまって転倒事故の原因となります。

⚠ 注意

(禁止)



しては
いけない

- 走行中に急にブレーキをロックしないでください。
車いす搭乗者が前に飛びだし、転倒など事故の原因となります。
- タイヤを持って車いすを操作しないでください。ブレーキに手があたり、ケガをする原因となります。
- スピードが出ている状態で、素手でハンドリムを持って減速しないでください。
摩擦で手にケガをする恐れがあります。
- 走行中、身体を乗り出さないでください。バランスが不安定になり、転倒・転落等事故の原因となります。
- 車輪が回転しているときは、スポークに手や指を差し込まないでください。
手や指をはさんで、ケガをする原因となります。
- バックしながら、急停止しないでください。転倒事故の原因となります。
- 凹凸のある路面では、前かがみ姿勢で使用しないでください。
バランスを崩し、前に転倒して事故の原因となります。
- バックサポートに重いものを引っ掛けしないでください。
車いすが不安定になり、転倒事故の原因となります。
- 車いすを上げる時に、座パイプの横や下に、手や指を入れないでください。
パイプに手や指を挟んでケガをします。
- スピードをつけて、段差を乗り越えようとししないでください。
使用者が車いすから転落して事故の原因となります。
- バックサポートが折りたたみの場合は、使用者が車いすに乗っている状態でグリップを持って吊り上げ
ないでください。
パイプが外れたりして、転倒・転落等事故の原因となります。
- 車いすを、横向きに倒して上に物を置かないでください。
重みで車輪フレームが、曲がったりして故障の原因となります。
- 車いすで荷物を運んだりしないでください。
- 火気の近くに置かないでください。タイヤがパンクしたり、シートが燃え火災の原因となります。
- アームサポートを持って、車いすを持ち上げないでください。転倒・転落事故の原因となり大変危険です。
- アームサポートを跳ね上げた状態で、アームサポートに力を加えないでください。
破損の原因となります。

(強制)



必ずして
いただく

- 介助者は、キャリパーレバーを両側同時にかけてください。
バランスを崩し、転倒事故の原因となります。
- 車いすを上げた時、座パイプが受けに収まっているか、確認して座ってください。
パイプが曲がったりして、転落事故及び故障の原因となります。
- 乗り降り、駐車は平坦な場所で行ってください。
車いすが動いたりしてバランスを崩し、転倒・転落等事故の原因となります。
- スロープを下るとき介助者は、車いすを後ろ向きでゆっくり確認しながら走行してください。
前向きで下ると乗っている人がずり落ちたり、前のめりとなり、転倒事故の原因となります。
- 安全ベルト装着機種は、必ずシートベルトを締めてください。衝撃などで転落し、事故の原因となります。
- マジック式安全ベルトは、糸くずや汚れを取り除いてください。
粘着力が弱くなり衝撃を受けた時外れ、転落事故の原因となります。
- 側溝の格子蓋、踏み切りのレール溝にキャストが落ち込まないように注意してください。
車いすが急に止まり使用者の体が前方に傾き、転倒・転落等事故の原因となります。
- フットサポートが固定されているか確認してから使用してください。
フットサポートが脱落し事故の原因となります。
- フットサポートの高さは地面より5cm以上でご使用ください。
路面の凹凸や障害物にフットサポートが引っかかり急に車いすが止まり、転倒事故の原因となります。
- レッグサポートをもどしたときは、ロックが確実にされているか確認してください。
足を乗せたとき、外れて足をケガをする原因となります。
- アームサポートの、ロックレバーのピンが完全にロックされていることを確認してください。
手をパイプに挟んでケガをする原因となります。

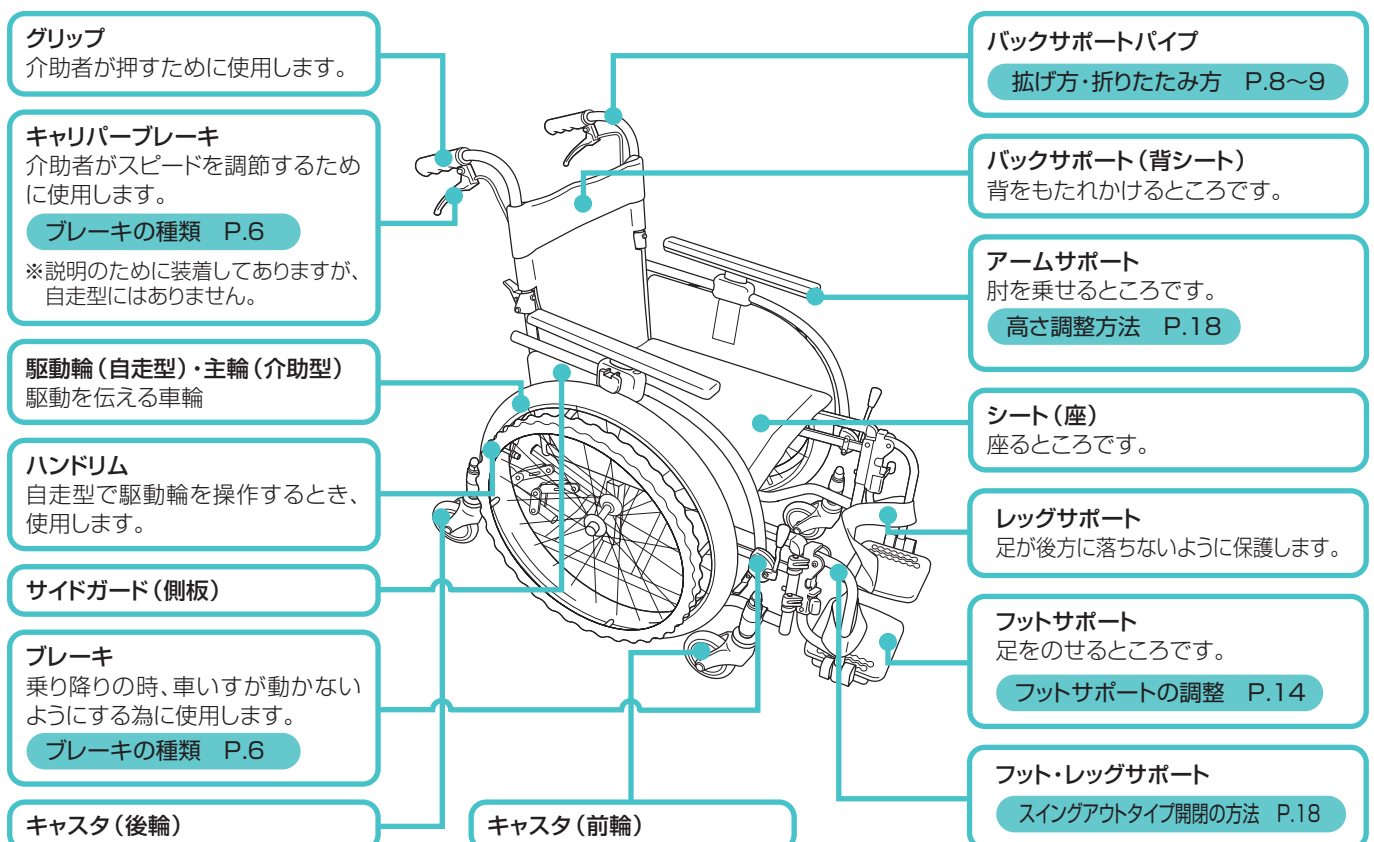
機種別寸法・機能一覧

寸法・機能	機種	TT-01	TT-02	TT-ジョイ	TT-Jr.
キャスト(インチ)		4	4	6	4
大車輪(インチ)		20	16	16	20
後キャスト(インチ)		4	4	5	2.5
前座高(m/m)		380	380	445(座クッション上 470)	380
後座高(m/m)		350	350	415(座クッション上 430)	360
全長(m/m)		985	985	1010	795
全高(m/m)		830	830	885	925
全幅(m/m)		600	600	590	455
折りたたみ幅(m/m)		340	340	360	320
重量(kg)		16.7	16.3	29.5(※)	12.0
タイプ		自走	介助	電動	自走
バックサポート		折りたたみ	折りたたみ	折りたたみ	折りたたみ
アームサポート		高さ調節	高さ調節	高さ調節/跳ね上げ	固定
フット・レッグサポート		スイングアウト	スイングアウト	スイングアウト	—
ブレーキ		ミニ	ミニ	ミニ	Jタックル
			ドラム(キャリパー)		

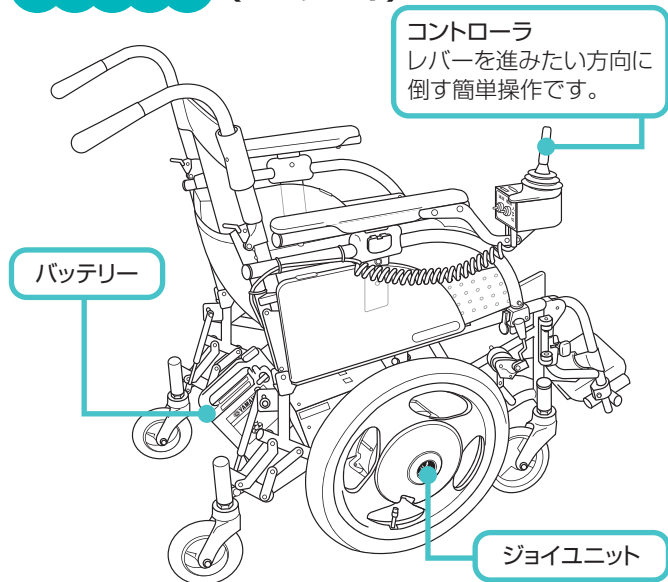
※バッテリー含む

各部の名称

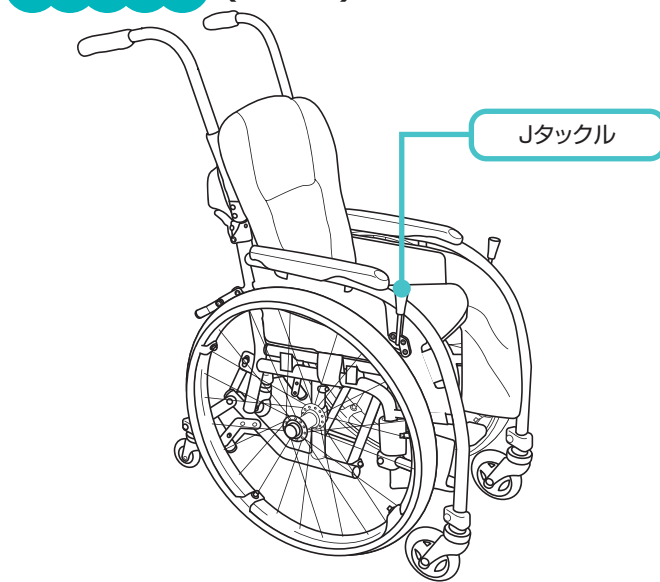
標準タイプ (自走:TT-01、介助:TT-02)



電動タイプ (TT-ジョイ)

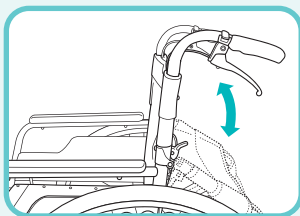


子供用 (TT-Jr.)



機能説明

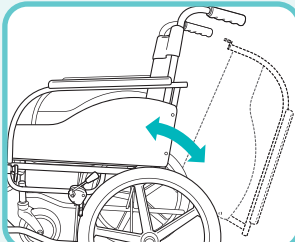
〈バックサポート〉



折りたたみ

背もたれが折りたたみで、自動車等への積み込みが容易に行えます。

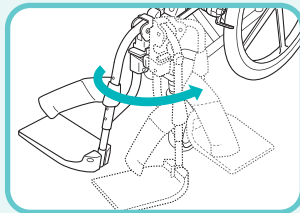
〈アームサポート〉



跳ね上げ

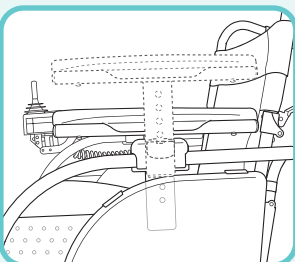
簡単なワンタッチ操作で肘掛けの跳ね上げができます。ベッド等の移乗時に大変便利です。介助軽減にも役立ちます。

〈フット・レッグサポート〉



スイングアウト

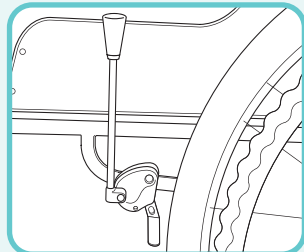
フット・レッグサポート部が開閉でき着脱可能です。ベッド、便器等への接近が容易です。片手片足操作にも適しています。樹脂製で、操作も簡単です。



高さ調整

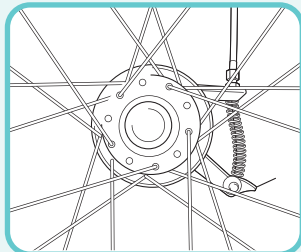
使用者の体格に合わせてアームサポートの高さ調節が工具なしで行えます。

〈ブレーキ〉



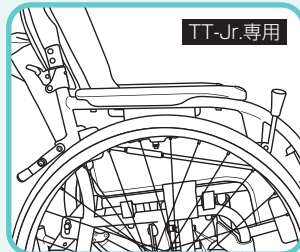
ミニタックル

乗り降りの際に車いすが動かないようにするために使用します。



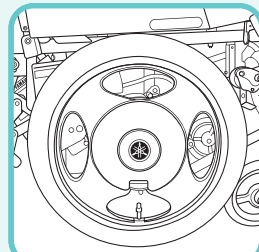
ドラム式介助ブレーキ

介助用のブレーキです。走行中や坂道で速度を調整する際に使用します。



Jタックル

車輪を動かす際にブレーキシューでケガをしないようにブレーキシューを後方へ配置したブレーキです。



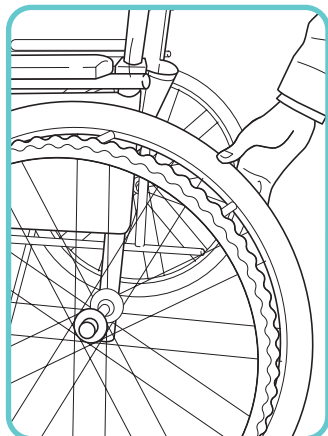
電動 (ジョイユニット)

コントローラレバーを進みたい方向に倒すだけで車いすを操作できる電動ユニットです。

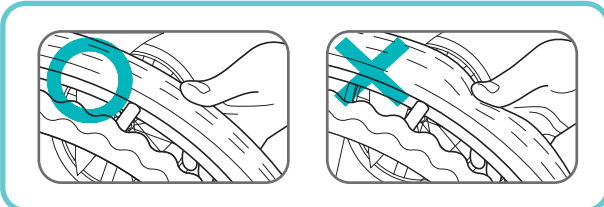
安全にお使いになるための使用方法

使用前の点検

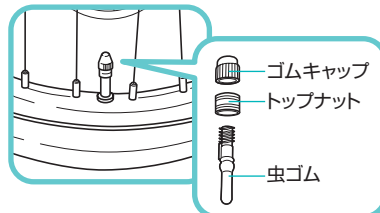
- ご使用前に、安全にご使用していただく為、次の確認をお願いします。
- ・タイヤの摩耗・亀裂はないか。
 - ・タイヤの空気圧は適正か。
 - ・ブレーキに異常はないか。
 - ・ブレーキをロックした時、駆動輪・主輪が回転しないか。



タイヤを親指で押し、容易にへこむ場合は、自転車用空気入れで補充してください。



タイヤの空気バルブのトップナットが緩んでいないか確認してください。



適正空気圧

- ・TT-01 (20×1 $\frac{3}{8}$) ……350kPa
- ・TT-02 (16×1 $\frac{3}{8}$) ……350kPa
- ・TT-ジョイ (16×1.75) ……300kPa
- ・TT-Jr (20×1) ……760kPa

警告

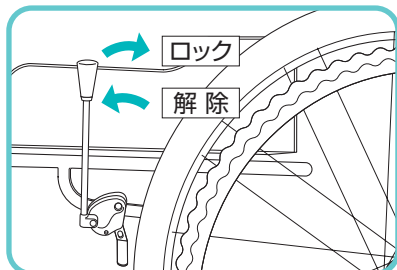
- タイヤの空気圧が少ない状態で、使用しないでください。
(ブレーキのロックが出来なくなり、車いすが動いたりして、事故の原因となります。また、タイヤのパンクの原因となります。)

してはいけない

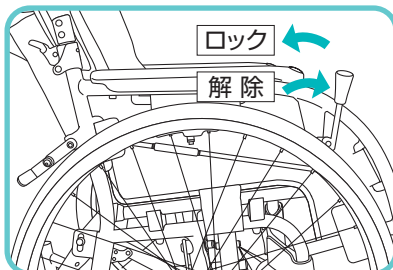
ブレーキの使用方法

- ブレーキレバーを後方に引くとロックします。
- ロックした方向と反対に引くと解除します。

ミニタックル



Jタックル



警告

- タイヤの空気圧が少ない状態で、使用しないでください。(使用前の点検を参照)
(ブレーキのロックが出来なくなり、車いすが動いたりして、事故の原因となります。)

してはいけない

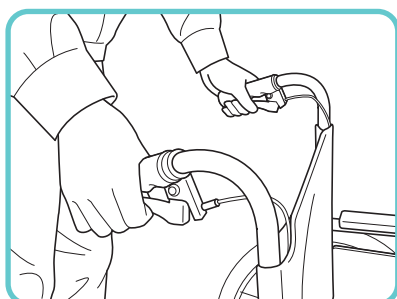
警告

- 車いすに乗る・降りる前や、ベッドへの移乗時には、必ずブレーキをロックしてください。
(車いすが動き、転倒事故の原因となります。)

していただく

キャリパーブレーキ

介助者が走行中や下り坂での速度減速及び停止に、ご使用ください。



注意

- 介助者は、キャリパーレバーを、両側同時にかけてください。
(バランスを崩し、転倒事故の原因となります。)

していただく

注意

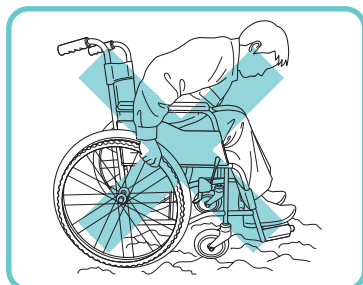
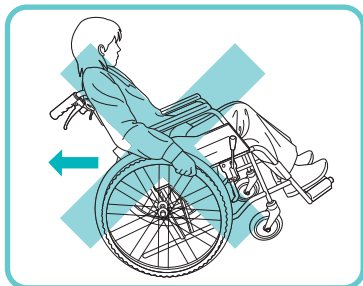
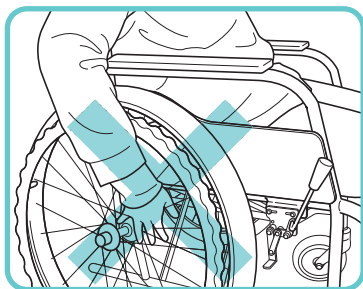
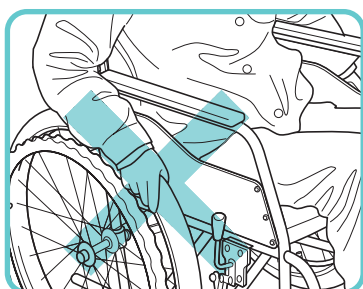
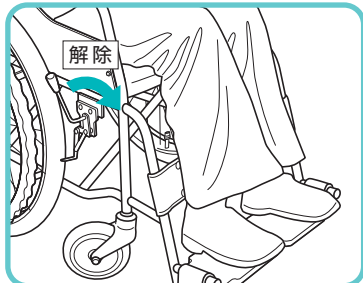
- 走行中に急にブレーキをロックしないでください。
(車いす搭乗者が前に飛びだし、転倒など事故の原因となります。)

してはいけない

車いすの操作方法

(自走用車いすの場合)

ブレーキロックを解除する。



ハンドリムを握り車輪を回転させ移動させる。

⚠ 注意

- タイヤを持って車いすを操作しないでください。(ブレーキに手があたり、ケガをする原因となります。)

してはいけない

⚠ 注意

- スピードが出ている状態で、素手でハンドリムを持って減速しないでください。(摩擦で手にケガをする恐れがあります。)

してはいけない

そのようなご使用をされる場合は、車いす用手袋〈オプション〉をご使用ください。

⚠ 注意

- 走行中、身体を乗り出さないでください。(バランスが不安定になり、転倒・転落等事故の原因となります。)

してはいけない

⚠ 注意

- 車輪が回転しているときは、スポークに手や指を差し込まないでください。(手や指をはさんで、ケガをする原因となります。)

してはいけない

このような場合には、スポークカバー〈オプション〉の使用をおすすめします。

⚠ 注意

- バックしながら急停車しないでください。(転倒事故の原因となります。)

してはいけない

⚠ 注意

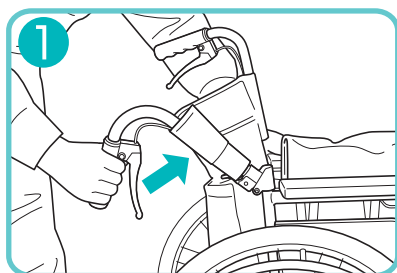
- 凹凸のある路面では、前かがみ姿勢で使用しないでください。(バランスを崩し、前に転倒して事故の原因となります。)

してはいけない

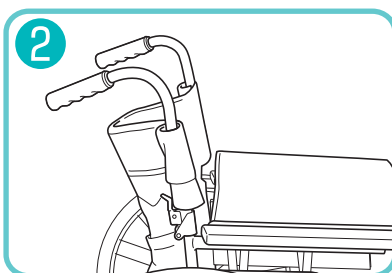
車いすの拡げ方

*バックサポートの折りたたみをおこす時は、車いすを折りたたんだ状態で行ってください。
(拡げた状態で行くと、バックサポートにバックサポートパイプが引っ張られ、ロック出来ない場合があります。)

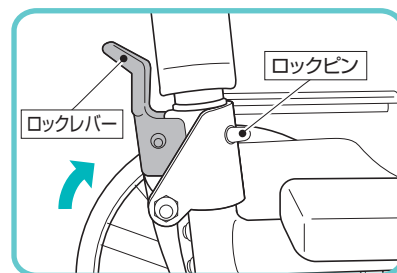
① グリップを持ち、矢印方向に、持ち上げる。



② バックサポートを両側起こす。



レバーを矢印方向に起こす。



警告

●バックサポート折りたたみのロックピンが、「カチッ」と音がして、完全に出ているのを確認してください。(転倒の原因となります。)

していただく



警告

●バックサポート折りたたみのロックレバーに、かばんなどを引っ掛けないでください。(ロックが解除され、転倒・転落等事故の原因となります。)

してはいけない

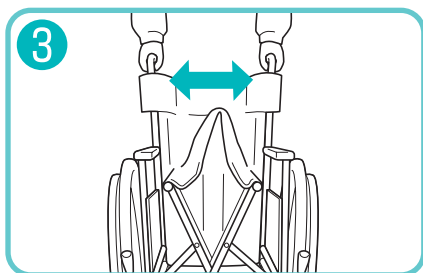


注意

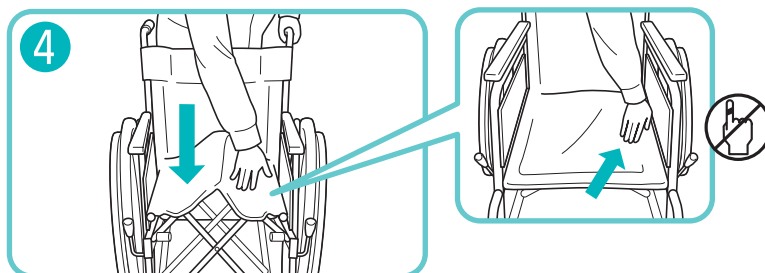
●バックサポートに重いものを引っ掛けないでください。(車いすが不安定になり、転倒事故の原因となります。)

してはいけない

③ 車いすの後方に立ち、左右のグリップを持って両側に拡げます。



④ 片側のグリップを手で持ち、シートを手で下に押し下げると、車いすが拡がります。



注意

●車いすを拡げる時に、座パイプの横や下に、手や指を入れないでください。(パイプに手や指をはさんでケガをします。)

してはいけない



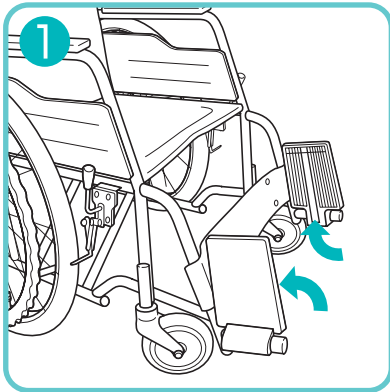
注意

●車いすを拡げた時、座パイプが受けに収まっているか、確認して座ってください。(パイプが曲がったりして、転落事故及び故障の原因になります。)

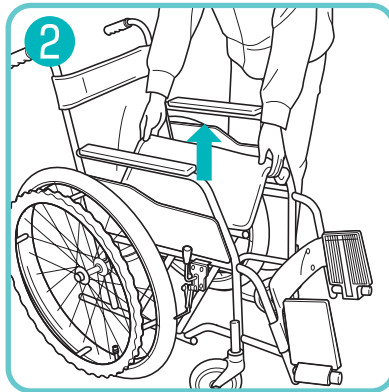
していただく

車いすの折りたたみ方

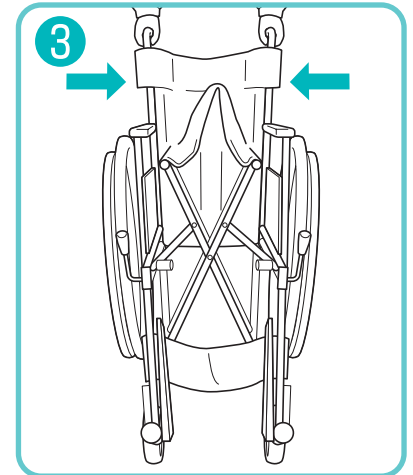
① フットサポートを矢印方向に回転させて上げる。



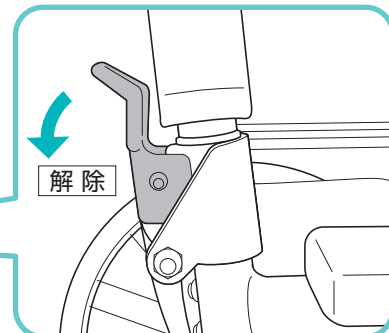
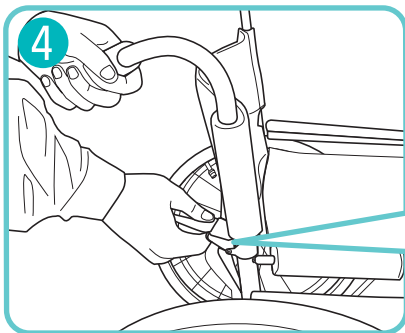
② シートの前方と後方の中央を同時に持ち上げる。



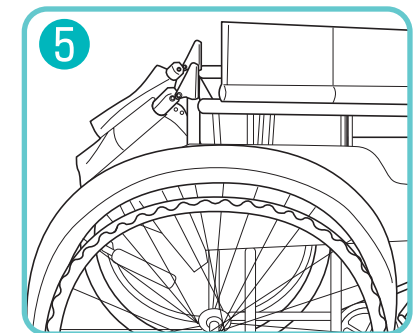
③ 左右のグリップを持ち内側にたたむ。



④ グリップを片手で持ち、ロックレバーを後方に引きバックサポートを倒す。

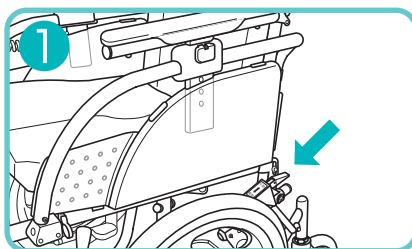


⑤ バックサポートを両側後方に倒す。

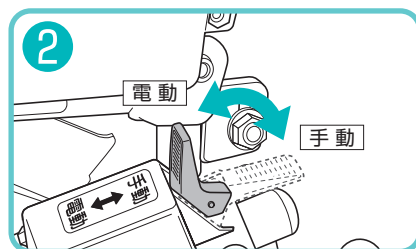


手動と電動の切り替え方〈TT-ジョイのみ〉

① クラッチレバーを確認します。



② 手動／電動を切り替えます。



警告

● 走行中にクラッチレバーを切り替えると、暴走、転倒・転落の恐れがあります。
クラッチレバーの切り替えは必ず停止した状態で行ってください。

していただく

車いすの乗り方・降り方



警告

- 車いすに乗る・降りる前や、ベッドへの移乗時には、必ずブレーキをロックしてください。
(車いすが動き、転倒事故の原因となります。)

していただく



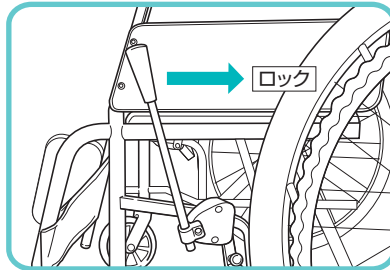
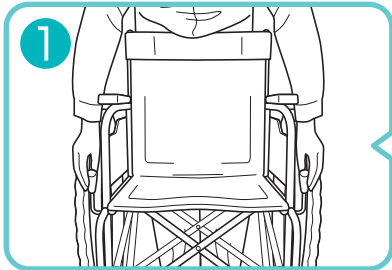
注意

- 車いすの、乗り降りるときは、路面の平坦な場所で行ってください。
(車いすが動き、バランスを崩し、転倒・転落等事故の原因となります。)

していただく

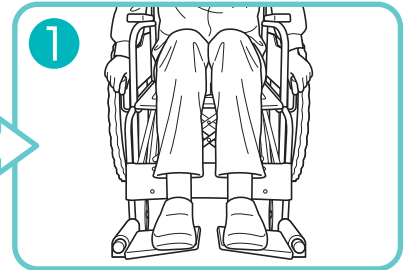
乗る場合

- 1 ブレーキを両側ロックする。

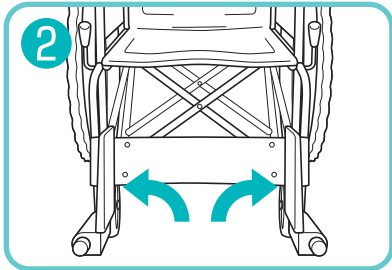


降りる場合

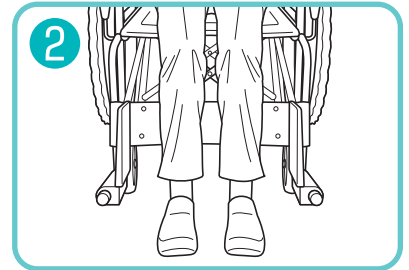
- 1 ブレーキを両側ロックする。



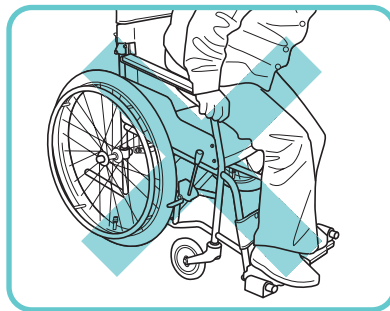
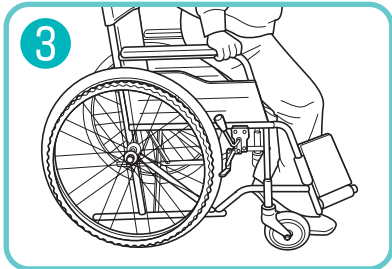
- 2 フットサポートを両側上げる。



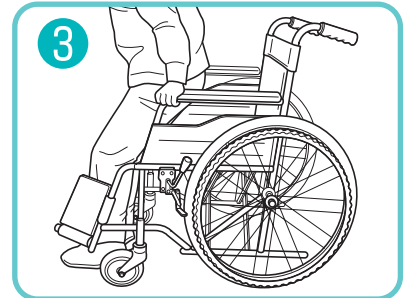
- 2 フットサポートを上げ、足を下ろす。



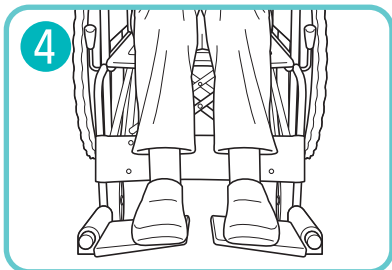
- 3 両手で、アームサポートを持ちゆっくり座り込む。



- 3 両手で、アームサポートを持ちゆっくり立ち上がる。



- 4 フットサポートに足を乗せる。



警告

- フットサポートの上に乗って乗り込んだり、降りるとき上に立ち上がらないでください。
(車いすが、バランスを崩し、転倒事故の原因となります。)

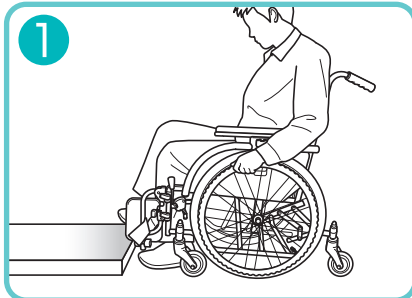
してはいけない

段差の乗り越え方

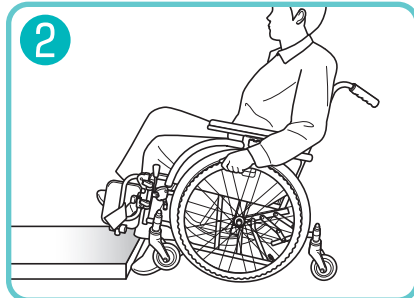
●段差を乗り越える場合は、次の手順で行ってください。

(自分で操作する場合)

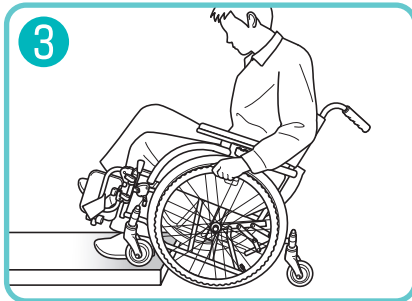
① 段差に近づいてください。



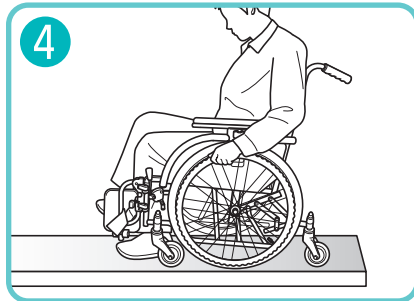
② 片足で軽く地面を押しながら体重を背シート側に傾けてください。



③ 前輪キャストを段差に乗せ体重を前方に傾けてください。



④ 大車輪を回して、段差を越えてください。



⚠ 注意

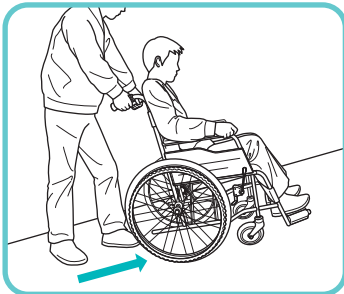
●操作は必ずゆっくりと行ってください。スピードをつけて、乗り越えようとしないでください。
(転倒・転落等事故の原因となります。)

してはいけない

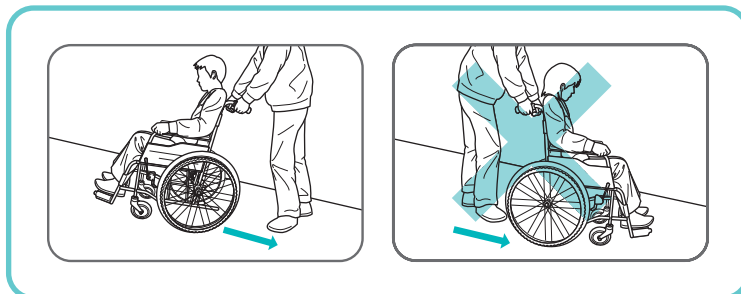
介助の仕方

スロープの登り下りでご使用される場合は、必ず介助者に支えていただいで行ってください。

登り坂



下り坂



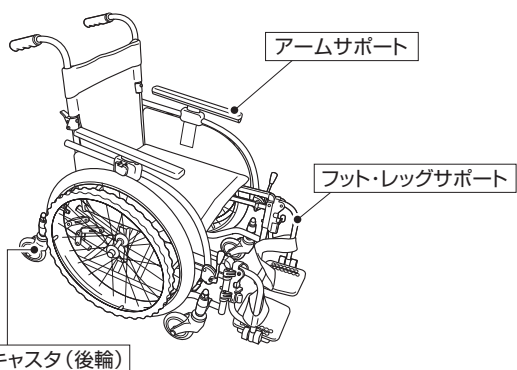
⚠ 注意

●スロープを下るとき介助者は、車いすを後ろ向きでゆっくり確認しながら走行してください。
(前向きで下ると、乗っている人がすり落ちたり、前のめりとなり、転倒事故の原因となります。)

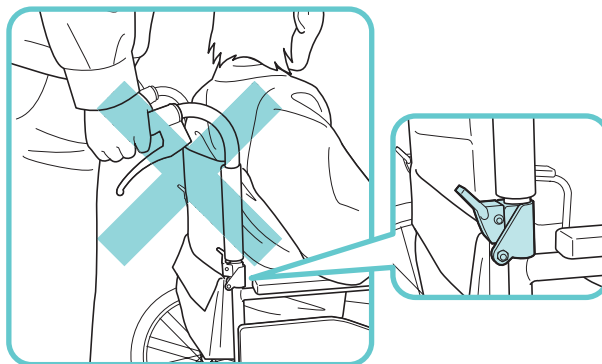
していただく

⚠ 注意

- 車いすを持ち上げる場合には、次の場所を持たないでください。



してはいけない



⚠ 注意

- 使用者が車いすに乗っている状態でグリップを持って吊り上げないでください。
(パイプが外れたりして、転倒・転落等事故の原因となります。)

してはいけない



■階段など使用者が乗ったままの状態、介助者に吊り上げてもらう場合

ベースパイプ・バックサポートパイプの固定されている箇所を持って、4~5人で支えてもらってください。

【介助者の方へ】

⚠ 注意

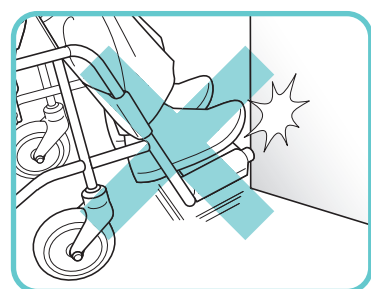
- 移動中、つま先が障害物に当たらないように、確認して走行してください。

していただく

⚠ 注意

- フットサポートに、足が乗っているか確認して走行してください。

していただく



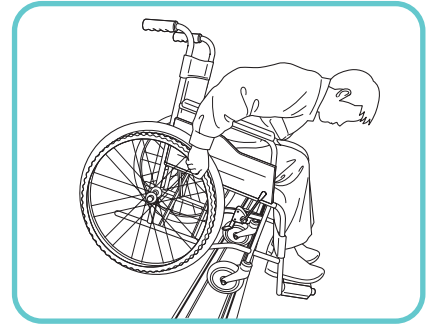
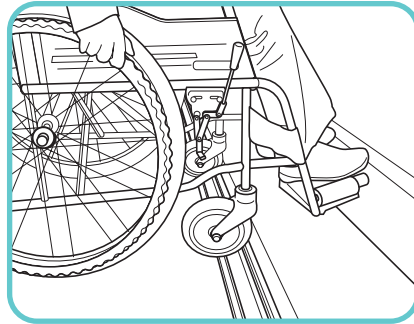
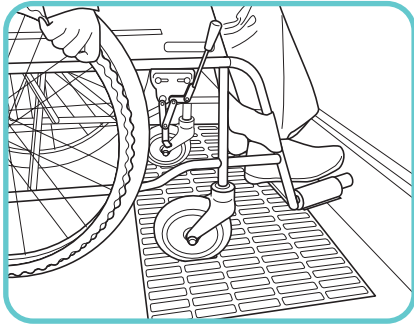
次のような使用場所や環境では、危険が伴う場合がありますので、必ず介助者が付き添ってください。

- ・坂道の登り下り
- ・踏切の横断
- ・側溝の格子蓋の横断
- ・悪路
- ・凸凹道
- ・電車への乗車、下車
- ・段差乗り越え
- ・路面が片側に傾斜しているところの走行

⚠ 注意

- この車いすは室内専用です。上記の場所では出来るかぎり使用しないでください。
万一、走行する場合には、十分に注意してください。

してはいけない



警告

- 側溝の格子蓋や踏み切りなどでご使用される場合は、必ず介助者に支えていただいで行ってください。
(車輪が溝にはまって転倒事故の原因となります。)

していただく

注意

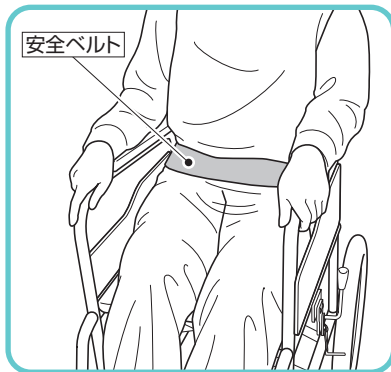
- 側溝の格子蓋、踏み切りのレール溝にキャストが落ち込まないように注意してください。
(車いすが急に止まり使用者の体が前方に傾き、転落・転倒等事故の原因となります。)

していただく

安全ベルト

*オプション装着

- 使用者が、車いすから転落したり、すり落ちるのを保護します。



注意

- 安全ベルト装着機種は、必ずシートベルトを締めてください。
(衝撃などで転落し事故の原因となります。)

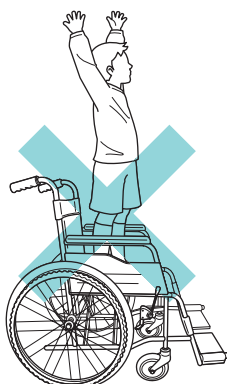
していただく

注意

- マジック式安全ベルトは、糸くずや汚れを取り除いてください。
(粘着力が弱くなり、衝撃を受けた時外れ、転落事故の原因となります。)

していただく

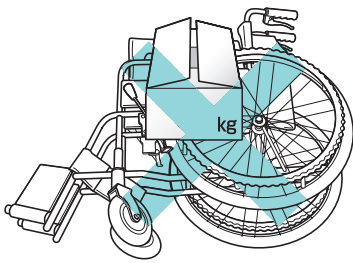
その他の注意事項



警告

- 車いすのシートの上で立ち上がらないでください。
(転倒事故の原因となります。)

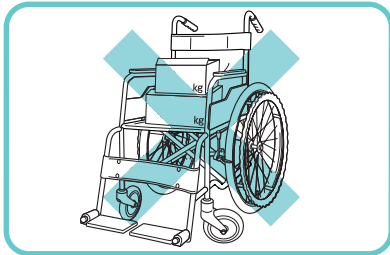
してはいけない



⚠ 注意

- 車いすを、横向きに倒して上に物を置かないでください。
(重みで車輪フレームが、曲がったりして故障の原因となります。)

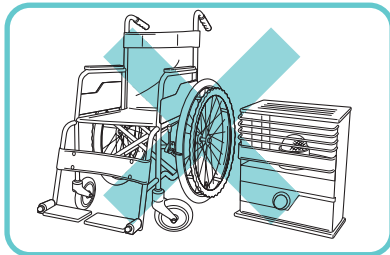
してはいけない



⚠ 注意

- 車いすで荷物を運んだりしないでください。

してはいけない



⚠ 注意

- 火気の近くに置かないでください。
(タイヤがパンクしたり、シートが燃え火災の原因となります。)

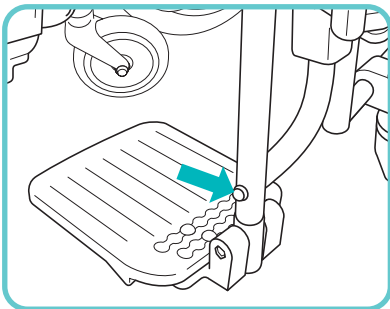
してはいけない

各部操作・調整の方法

フットサポートの調整<TT-01,02の場合>

高さ調整

フットサポートの高さを4段階（15mm間隔）で調整できます。

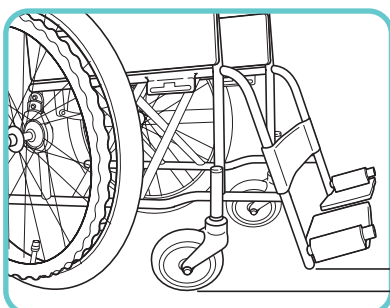


- ① 付属の六角レンチで、六角穴付ボルトを外してください。
- ② フットサポートを適切な高さに調整し、レグパイプの穴と位置を合わせてください。
- ③ 取り外した六角穴付ボルトを締めてください。

⚠ 注意

- フットサポートが固定されているか確認してから使用してください。
(フットサポートが脱落し事故の原因となります。)

していただく



⚠ 注意

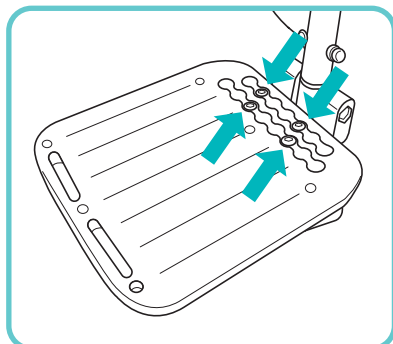
- フットサポートの高さは地面より5cm以上で
ご使用ください。
(路面の凹凸や障害物にフットサポートが引っかかり
急に車いすが止まり、転倒事故の原因となります。)

していただく

↑ 5cm以上

前後調整

- フットサポートを前後5段階に調整することができます。

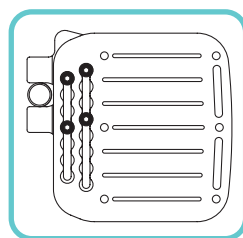
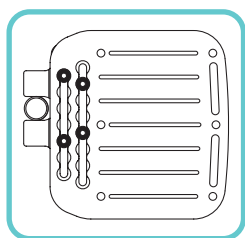
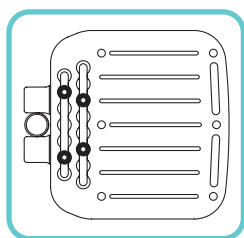
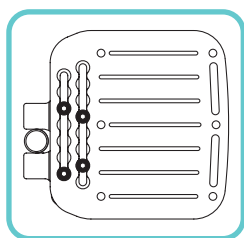
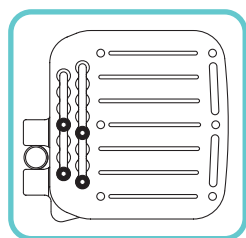


付属の六角レンチで4本の六角穴付ボルトを外してください。

※適正トルク
6Nm

- ・適当な位置に合わせてください。
- ・下図のようにボルト位置はできるだけ離れた位置を使用してください。
- ・ボルトを締めてください。

フットサポートボルト位置



⚠ 注意

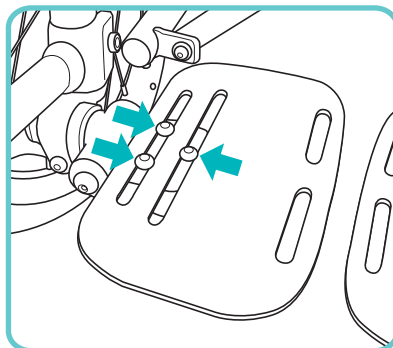
- フットサポートが固定されているか確認してください。
(フットサポートが外れ事故の原因となります。)

していただく

アジャスタブルフットサポート(前後&角度)の調整<TT-Jr.の場合>

前後調整

- フットサポートを前後に調整することができます。



付属の六角レンチ(対辺3mm)で3本の六角穴ボルトをゆるめてください。

※適正トルク
6Nm

- ・適当な位置にずらしてください。
- ・ボルトを締めてください。

⚠ 注意

- フットサポートが固定されているか確認してください。
(フットサポートが外れて事故の原因となります。)

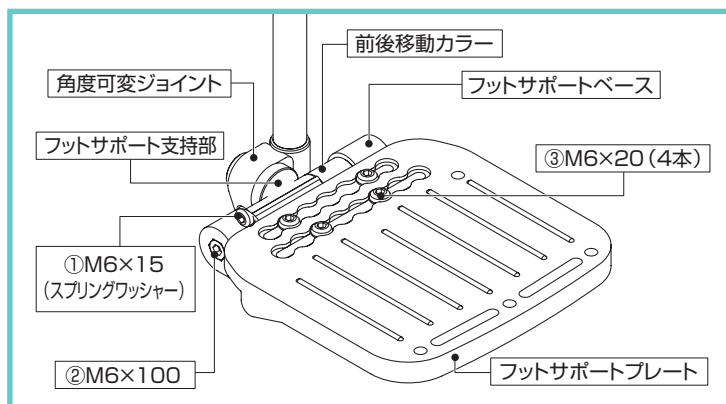
していただく

角度調整 P.17を参照してください。

高さ調整 P.17を参照してください。

アジャスタブルフットサポート（前後&角度）の調整〈TT-ジョイの場合〉

各部名称



※適正トルク

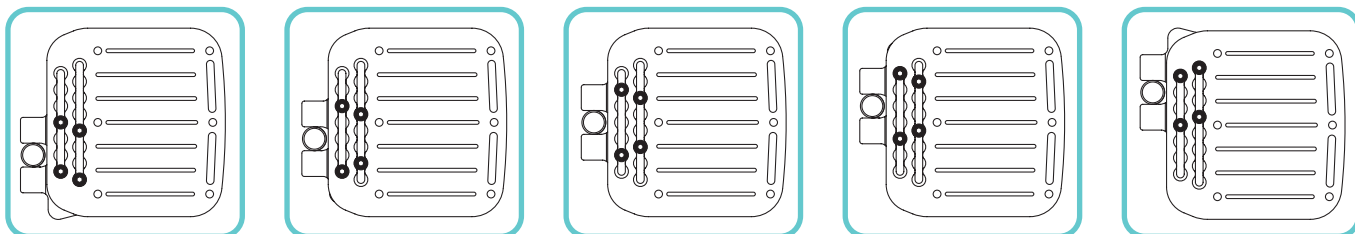
- ①M6×15…10Nm
- ②M6×100…7Nm
- ③M6×20…7Nm

前後調整

基本的な調整方法

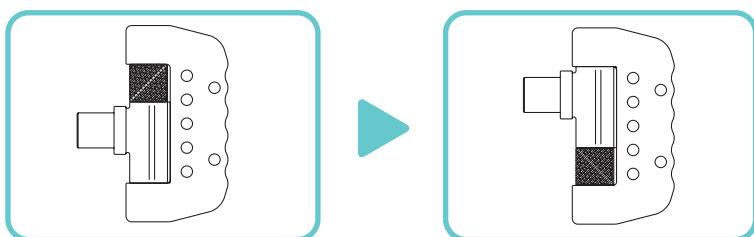
● ボルト位置

③M6×20 (4本) を取り外します。このとき、フットサポートベース裏側のナット (4個) を無くさないようにしてください。下の図のように、前後5段階に調節ができます。(13mm間隔) 4本のボルトを締めてください。
※ボルト位置は図のようにできるだけ離れた位置を使用します。



さらに調整する方法(その1)

②M6×100を取り外します。下の図のように、前後移動カラーを組み替えることで、さらに20mm調節ができます。



さらに調整する方法(その2)

①M6×15をゆるめます。(取り外す必要はありません) ※このとき、スプリングワッシャーを無くさないようにしてください。左右のフットサポート支持部を取り外し、左右を入れ替えることで13mm調節位置を変えることができます。



注意

- ①②③のボルトは必ず締めて下さい。フットサポートが外れ、ケガをする恐れがあります。

していただく

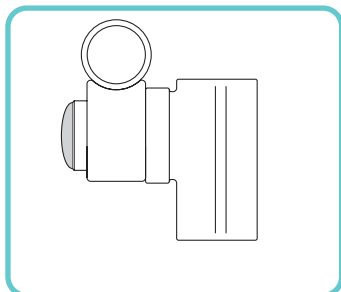
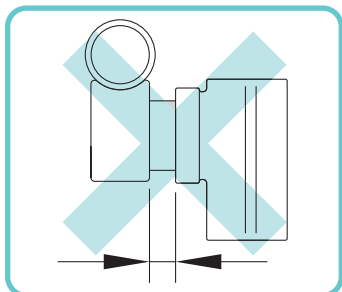
角度調整

①M6×15をゆるめます。(取り外す必要はありません)

※このときスプリングワッシャーを無くさないようにしてください。

フットサポートプレート全体をしっかりと持ち、最適な位置へ角度を変更してください。

※このときフットサポート支持部と角度可変ジョイントの間にすき間がないようにしてください。



⚠ 注意

- すき間がある状態で使用するとフットサポートが外れケガをすることがあります。

してはいけない

位置が決まったら、①M6×15を締めてください。
フットサポートが動かないか確認してください。

⚠ 注意

- ①のボルトは必ず締めてください。

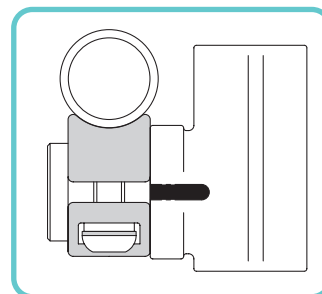
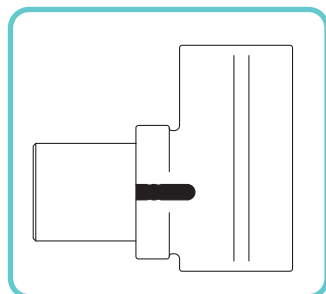
フットサポートが急に角度が変わったり、外れたりして、ケガをする恐れがあります。

していただく

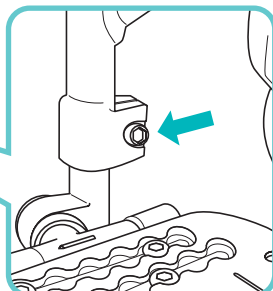
👉 1Point

フットプレートを 初期設定に戻したい場合

フットプレート支持部の下側に突起が設けてあります。
この突起を角度可変ジョイントのすき間に合わせてください。



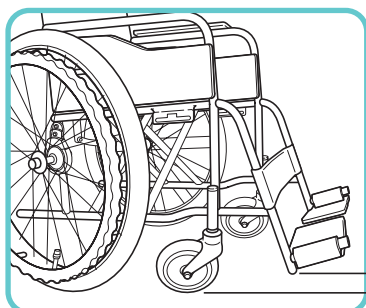
高さ調整



※適正トルク
10Nm

フットサポートを支えながら
ボルトをゆるめる。

高さを調整し、ボルトを締める。



↑ 5cm以上

⚠ 注意

- フットサポートの高さは地面より5cm以上で
ご使用ください。

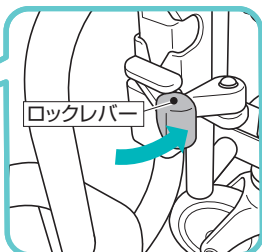
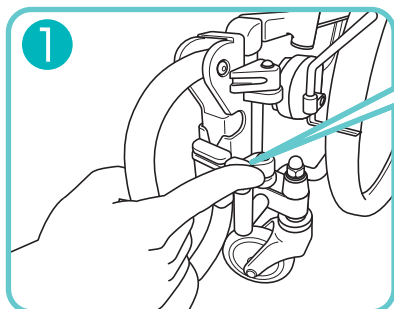
(路面の凹凸や障害物にフットサポートが引っかかり
急に車いすが止まり、転倒事故の原因となります。)

していただく

フット・レッグサポートの開閉〈TT-01、02、ジョイの場合〉

- スイングアウトしたり、取り外すことにより、トイレ・ベッドへの乗り移りがしやすくなります。又、片足こぎ操作されたりする時は、取り外しすることにより、足元が広くなります。

①ロックレバーを押し、ロックを解除します。

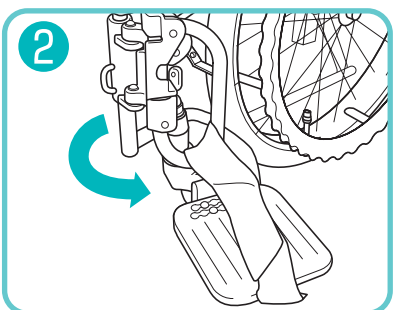


⚠ 注意

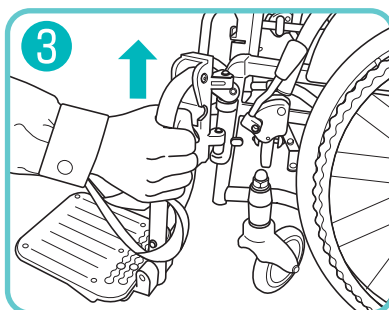
- スイングアウトをもどしたときは、ロックが確実にされているか確認してください。
(足を乗せたとき、外れて足をケガする原因となります。)

していただく

②レッグサポートを開くように外側に回転させます。



③レッグサポートを取り外すときは、外側に回転した状態から上に持ち上げてください。



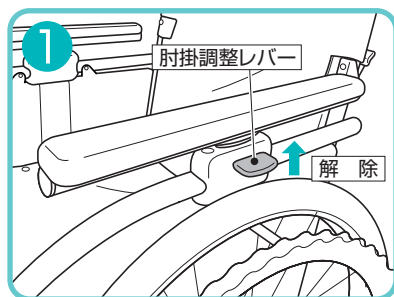
⚠ 注意

- スイングアウトや脱着・取り付け操作時に、手をはさまないように注意してください。

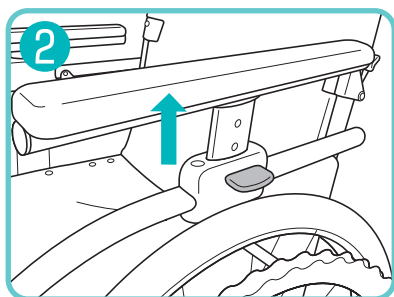
していただく

アームサポートの調整〈TT-01、02、ジョイの場合〉

- 肘掛(パット)の高さを250~330mmまで5段階に調整することができます。



①肘掛調整レバーを解除位置にする

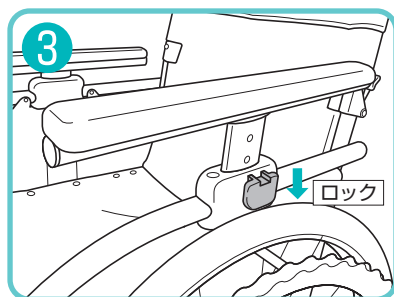


②肘掛の高さを適当な位置にする。

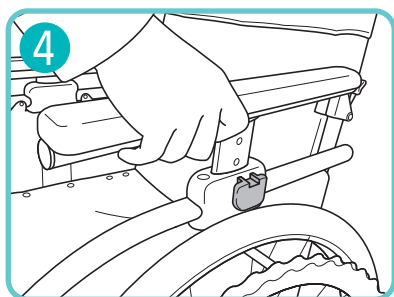
⚠ 注意

- ロックが確実にされていることを確認してください。

していただく



③肘掛調整レバーをロック位置にする。



④肘掛を上下に動かしロックされていることを確認してください。

⚠ 注意

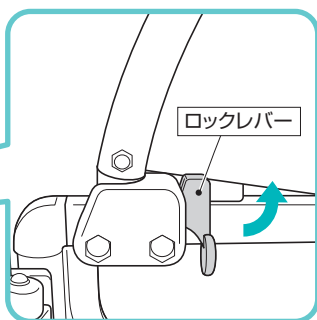
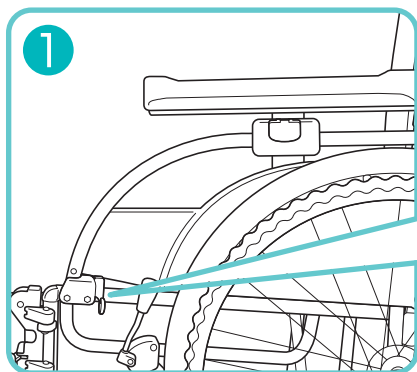
- 肘掛(パット)の下に手などを入れないようにしてください。

していただく

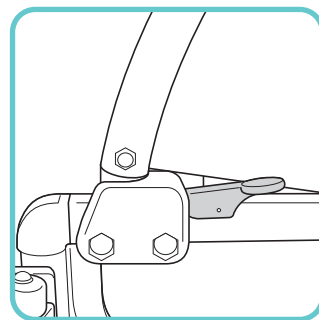
アームサポートの跳ね上げ〈TT-ジョイの場合〉

●両側のアームサポートが後方に跳ね上がりますので、横からの乗り移りがしやすくなります。

① ロックレバーを矢印方向に起こす。

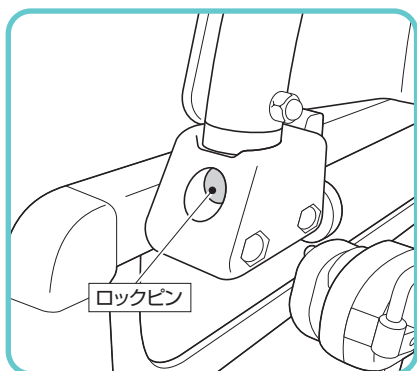
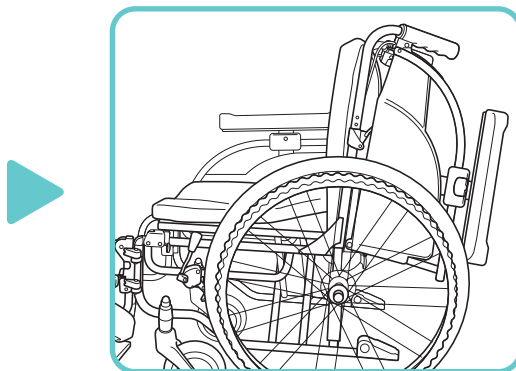
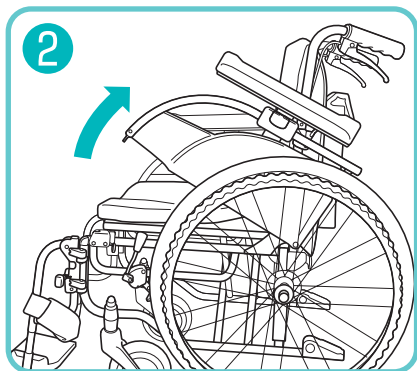


(解除した状態)



② アームサポートを後方に上げる。

(跳ね上げた状態)



! 注意

- アームサポート跳ね上げをもどしたときは、ロックレバーのピンが完全にロックされていることを確認してください。
(転落事故の原因となります。)

していただく

! 注意

- アームサポートを持って、車いすを持ち上げないでください。
(ケガ、転倒・転落等事故の原因となります。)

してはいけない

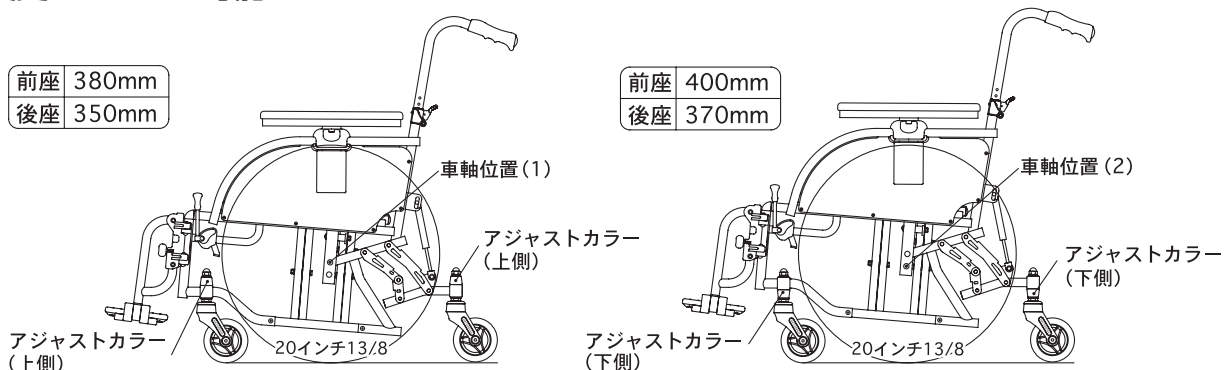
! 注意

- アームサポートを跳ね上げた状態で、アームサポートに力を加えないでください。
(破損の原因となります。)

してはいけない

座面高さの調整〈TT-01のみ〉

- 自走タイプの場合、駆動輪とキャスト（前輪と後輪）の取り付け位置を変更することで、座高を変更することが可能です。



〈寸法表〉

車輪の位置	アジャストカラー	前 座	後 座
1	上	380	350
2	下	400	370

※適正トルク
アジャストカラー部… 15~20Nm
車軸部…………… 30Nm

- ①大車輪を止めているナット（ワッシャー・スプリングワッシャー）を外してください。
- ②キャスト（前輪と後輪）を止めているナット（ワッシャー・スプリングワッシャー）とアジャストカラーを外してください。
- ③大車輪・アジャストカラーを上表の組み合わせの位置に取りつけてください。
- ④大車輪・キャスト部のナット（ワッシャー・スプリングワッシャー）を取りつけてください。
- ⑤試乗して確認してください。

⚠ 注意

- ナットは確実に止めてください。（外れて転倒・転落等事故の原因となります。）

していただく

もしこんなトラブルが発生したときは

車いすをご使用されていて故障かなど、思うトラブルが発生したら、修理を依頼するまえに下記項目を確認してください。

トラブル	確認点	対処
タイヤの空気が少ない	・タイヤの空気圧は適正ですか	空気を入れてください
空気を入れてもすぐに抜ける	・タイヤの空気入れ部のトップナットは、しっかり締まっていますか	しっかり締め直してください
	・虫ゴムが劣化していませんか	虫ゴムを交換してください
走行操作が重い	・タイヤの空気圧は適正ですか	空気を入れてください
	・駆動輪・キャストに髪の毛、糸くずなどが巻きついていませんか	取り除いてください
真っ直ぐ走らない	・キャスト（前輪）が片べりしていませんか	取扱店にご連絡してください
	・左右のタイヤの空気圧は適正ですか	左右のタイヤの空気圧を合わせてください
バックサポート折りたたみのロックピンが入らない	・車いすを払げてバックサポートを折りたたみしていませんか	車いすを折りたたんで行ってください
キャリパーブレーキが効かない	・ワイヤーがねじれていませんか	ワイヤーのねじれを調整してください
	・ワイヤーの遊びが多くありませんか	取扱店にご連絡してください
ブレーキが効かない	・タイヤの空気圧は適正ですか	空気を入れてください
	・タイヤは、摩耗していませんか	取扱店にご連絡してください

車いすのお手入れの方法

■清掃は、水につけたタオルを強くしぼり、泥やホコリを拭き取った後に乾いた布で仕上げ拭きをしてください。揮発性剤(シンナー・ベンジン・アルコール類)では、清掃しないでください。変色したり、劣化の原因となります。ホースなどで、直接水をかけないでください。車輪及びフレーム内部・ブレーキ部等に水滴が残り、錆の原因となります。

■タイヤの空気圧は、最適空気圧を適正に保ってください。(P.6参照)
空気圧が少ないときは、補充してください。

■タイヤには、ひび割れを防ぐ為に老化防止剤が配合されていますので、次のような環境及び薬剤はさけてください。タイヤの劣化を促進させ、ひび割れの発生原因となります。

- オゾン (O₃)
- 光線(日光)、熱・伸張等の機械的作用。
- 銅・マンガンのような金属の塩、石鹼などの容易に酸化される物質。
- シリコン系ワックス(自動車タイヤ用ツヤ出し剤、潤滑剤〈錆落とし含む〉)。

■車いすに異常がある場合は、取扱店で、点検・修理をおこなってください。
その状態で使用されると、使用中に破損し、事故の原因となります。

- タイヤの劣化・ひび割れ・エア漏れ
- 各部固定部品の変形
- ボルト・ナット・ビスの緩み
- フレームのひび割れ・曲がり・ガタツキ
- 駆動輪・キャストの変形
- キャリパーブレーキ・ブレーキの効き具合

保管場所

次のようなところでは、保管しないでください。
故障の原因となります。

- 雨に濡れるようなところ
- 直射日光が当たるようなところ
- 湿気の多いところ
- 高温室になるようなところ
- 炎天下なところ

保証

- 保証期間は、お買上げ後1カ年です。(本体、付属品共)
ただし、次の場合は、保証期間中でも有償修理とさせていただきます。
 1. 火災、天災による故障・損傷の場合
 2. 取扱説明書に記載の使用方法、ご注意に反するお取扱いによって発生した故障の場合
 3. 無断仕様変更及び、改造による故障の場合
 4. タイヤの摩耗、パンク、シートのやぶれ、ブレーキ用ワイヤー、ブレーキゴム等の消耗品、及び各部の劣化による故障、損傷の場合
 5. 修理に要した運賃等の諸経費
- この保証書は日本国内のみ有効です。

アフターサービス

万一故障の場合は、お買上げいただきました販売店、または松永製作所へ保証書ご持参の上、修理をお申しつけください。